



2024年度 第2四半期 決算説明


証券コード：6908

2024年11月5日

IRISO 電子工業株式会社
IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.



-  **I. 2024年度第2四半期 業績概要**
- II. 2024年年度 業績見通し**
- III. 株主還元**
- IV. トピックス**

1. 2024年度2Q決算説明のポイント

2024年度2Q累計実績

- 前年同期比で、売上高▲3.5%の272億円、営業利益▲36.1%の21億円。xEV販売の伸長率鈍化、インダストリアル市場の長引く低迷により減収減益
- 利益面では、主に売上減により減益となったが、材料・エネルギー・輸送費等の高騰等の悪化要因を、固定費の抑制、原価低減で吸収
- 運転資金の改善により、営業キャッシュフローマージン率を25.6%まで向上

2024年度業績見通し、株主還元

- 上期実績および下期の需要見通しを踏まえ、業績予想を修正
- 期初計画比で、売上高▲6.9%の540億円、営業利益▲38.6%の43億円を計画。2Q売上高は146億円まで回復でき、高速伝送対応コネクタは計画以上の受注あるが、弱含みの需要を前提に計画
- 年間配当は期初計画を据え置く。また、新たに自己株式の取得を実施

2.業績概況

単位：百万円

	2023年度 2Q累計	2024年度			2Q累計 前年同期比			
		1Q	2Q	2Q累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	28,140	12,534	14,624	27,159	▲980	▲3.5%	+1,574	25,585
営業利益	3,315	190	1,929	2,119	▲1,196	▲36.1%	+50	2,069
営業利益率	11.8%	1.5%	13.2%	7.8%		▲4.0pts		8.1%
EBITDA	6,388	1,972	3,645	5,617	▲770	▲12.1%	+50	5,567
EBITDA率	22.7%	15.7%	24.9%	20.7%		▲2.0pts		21.8%
為替:ドル/円	141.31	156.53	148.37	152.30	+10.99	+7.8%		

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

単位：百万円

	2023年度 2Q累計	2024年度			2Q累計 前年同期比			
		1Q	2Q	2Q累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	27,240	13,234	14,624	27,859	+619	+2.3%	+1,574	26,285
営業利益	2,892	519	1,929	2,448	▲444	▲15.4%	+50	2,398
営業利益率	10.6%	3.9%	13.2%	8.8%		▲1.8pts		9.1%
EBITDA	5,965	2,300	3,645	5,946	▲19	▲0.3%	+50	5,896
EBITDA率	21.9%	17.4%	24.9%	21.3%		▲0.6pts		22.4%

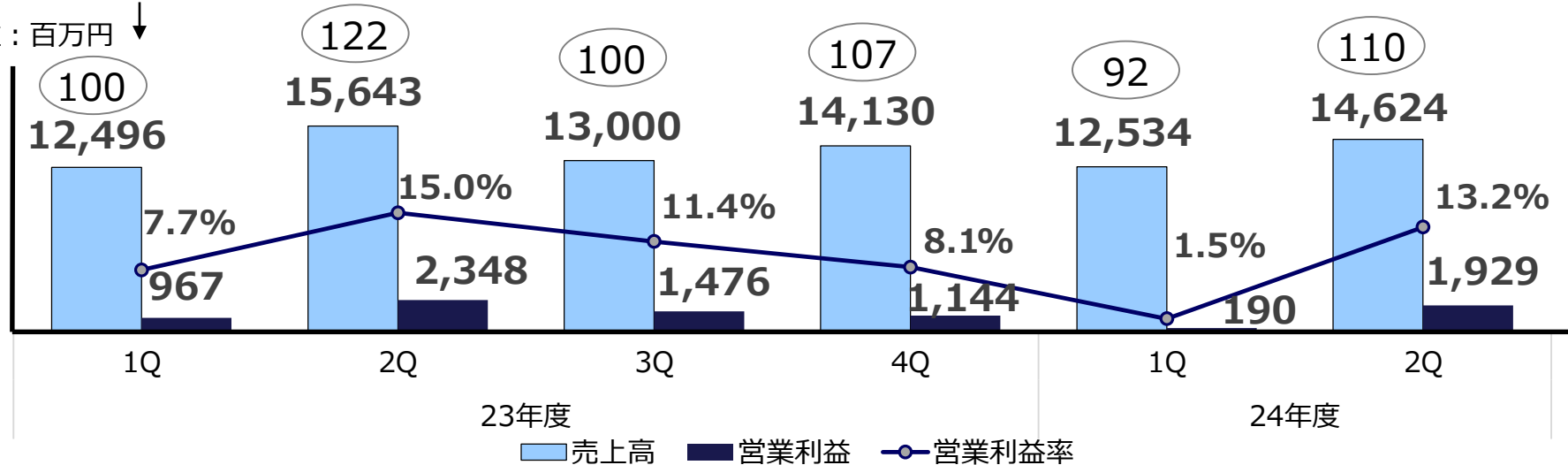
■ ERP切替影響を除く前年同期比で、売上高+2.3%増収、為替影響を除き▲9.5億円減収。
操業度減により営業利益は▲4.4億円減収。

※EBITDA：営業利益+減価償却費

3. 四半期別売上高・営業利益推移

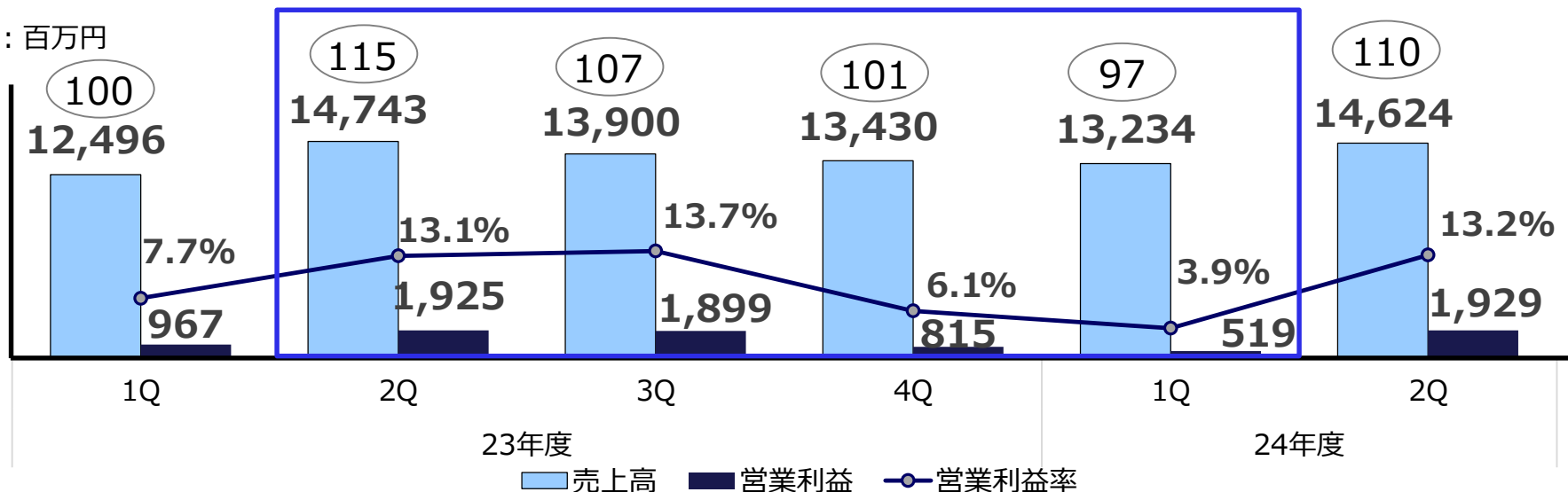
除く 為替影響、23年度1Qを100とした指数

単位：百万円 ↓



【ご参考】 ERP切り替えによる売上前倒し影響除き(23年度2Q←3Q、23年度4Q←24年度1Q)

単位：百万円



4. 2024年度2Q 連結決算の概要

単位：百万円

	23年度 2Q累計	構成比	24年度 2Q累計	構成比	増減額	増減率
売上高	28,140	100.0%	27,159	100.0%	▲980	▲3.5%
モビリティ	23,986	85.2%	23,577	86.8%	▲409	▲1.7%
コンシューマー	2,437	8.7%	2,361	8.7%	▲75	▲3.1%
インダストリアル	1,715	6.1%	1,220	4.5%	▲495	▲28.9%
売上原価	19,251	68.4%	18,894	69.6%	▲357	▲1.9%
販売管理費	5,572	19.8%	6,145	22.6%	+573	+10.3%
営業利益	3,315	11.8%	2,119	7.8%	▲1,196	▲36.1%
税引前利益	4,101	14.6%	1,492	5.5%	▲2,609	▲63.6%
四半期純利益	3,167	11.3%	1,089	4.0%	▲2,078	▲65.6%
EPS	134.66円		47.10円			
為替レート	ドル：141.31円		152.30円		+10.99円	+7.8%
期中平均	ユーロ：153.51円		165.46円		+11.95円	+7.8%
	元：19.80円		21.15円		+1.35円	+6.8%

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

売上高	27,240	100.0%	27,859	100.0%	+619	+2.3%
モビリティ	23,086	84.8%	24,277	87.1%	+1,190	+5.2%
営業利益	2,892	10.6%	2,448	8.8%	▲444	▲15.4%

5. 売上・利益変動要因(23年度2Q累計比)

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
23年度2Q累計 実績	28,140	3,315	11.8%	
ERP切り替え影響	▲1,600	▲750		23年3Q→2Q前倒し影響：9億円 24年1Q→23年4Q前倒し影響：7億円
為替影響	+1,574	+50		USD: 141.31円→152.30円、108% EUR: 153.51円→165.46円、108% CNY: 19.80円→21.15円、107%
物量減	▲954	▲450		
材料費増		▲440		素材市況価格高騰
固定費増		▲230		賃金引上げ、エネルギー費高騰、新ERP・秋田 新工場建設費用増を、操業度減に対応した人員・経費抑制推進
原価低減他		+624		収益構造改善による原価低減、売価ダウン他
変動要因 計	+620	▲446		
24年度2Q累計 実績	27,159	2,119	7.8%	

6. 財務状況

単位：百万円

	23年度	24年度 2Q	前年末比
流動資産	56,093	54,677	▲1,416
現金及び預金	26,692	27,221	+528
売掛債権	15,010	13,360	▲1,650
棚卸資産	12,616	11,780	▲836
固定資産	40,762	40,860	+98
資産合計	96,856	95,538	▲1,317
負債合計	19,839	24,562	+4,723
買掛債務	5,466	5,266	▲200
借入金	6,825	11,749	+4,923
純資産合計	77,016	70,975	▲6,041
株主資本計	62,498	58,226	▲4,272
自己資本比率	78.7%	73.5%	▲5.2pts

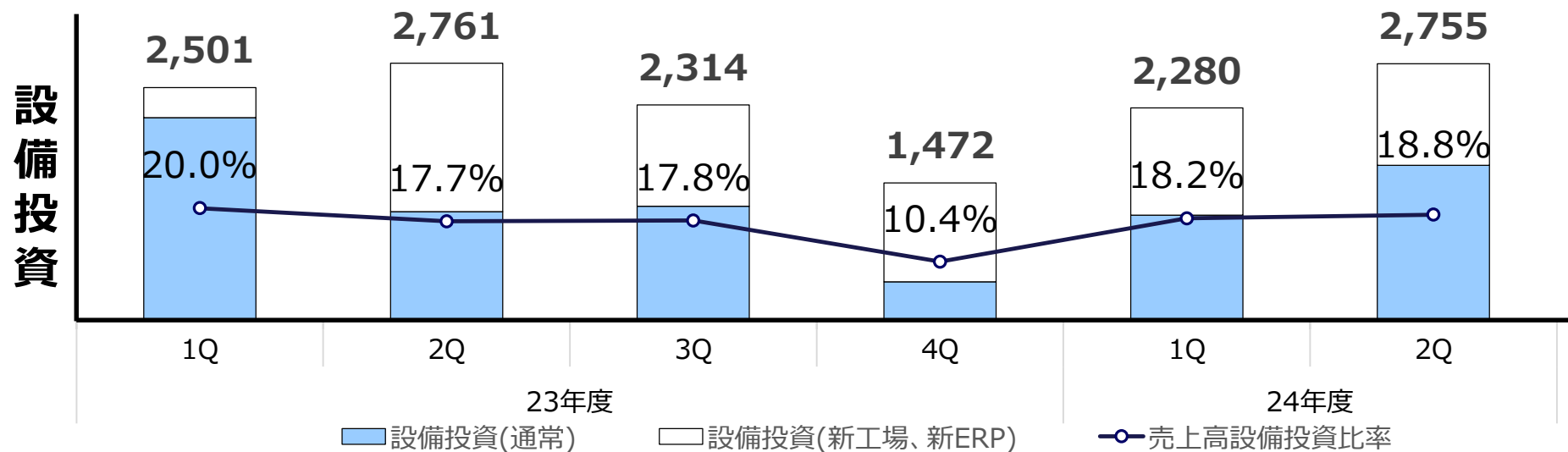
7. キャッシュフロー

単位：百万円

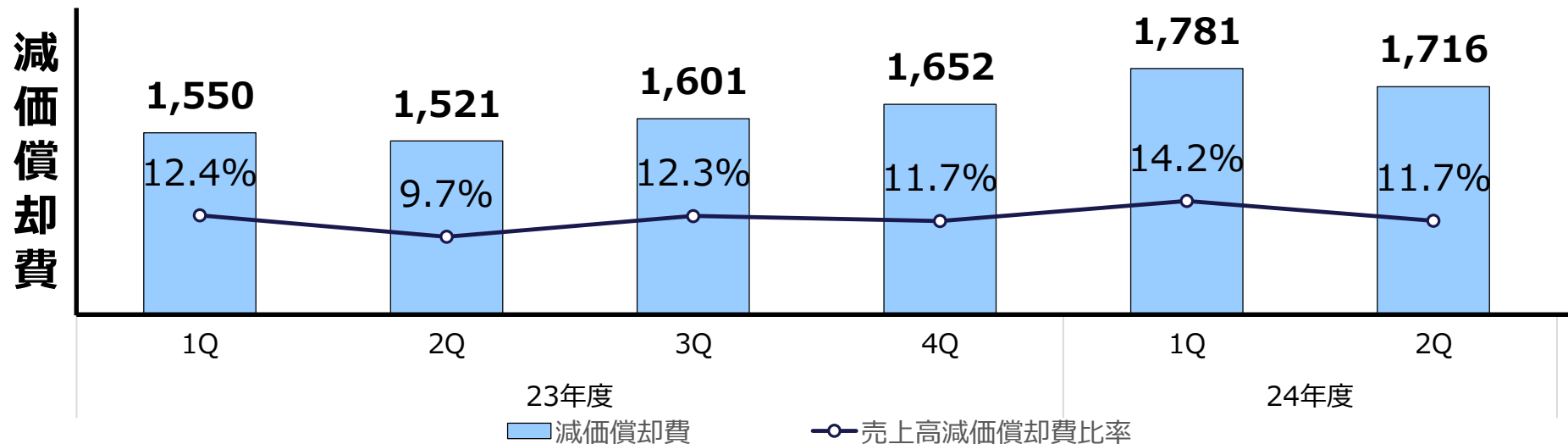
	23年度 2Q累計	24年度 2Q累計	増減
営業キャッシュフローマージン率	18.8%	25.6%	+ 6.8pts
営業キャッシュフロー	5,287	6,942	+ 1,654
税引前利益	4,101	1,492	▲2,609
減価償却費	3,072	3,498	+ 425
運転資金増減(△は増加)	▲928	1,796	+ 2,725
投資キャッシュフロー	▲5,449	▲5,058	+ 391
有形固定資産	▲4,475	▲5,001	▲525
フリーキャッシュフロー	▲162	1,883	+ 2,046
財務キャッシュフロー	1,617	▲603	▲2,220
配当金・自己株式の取得	▲1,893	▲5,492	▲3,598
現金及び現金同等物期末残	21,639	27,221	+ 5,582

8. 設備投資・減価償却費推移

単位：百万円



単位：百万円



9. 地域別・製品別売上高

■ 地域別

単位：百万円

	2023年度		2024年度				2Q累計 前年同期比	
	2Q累計	構成比	1Q	2Q	2Q累計	構成比	増減額	増減率
日本	4,983	17.7%	1,810	2,336	4,146	15.3%	▲836	▲16.8%
中華・韓国圏	11,014	39.1%	5,105	6,275	11,381	41.9%	+366	+3.3%
アメリカ	3,451	12.3%	1,598	1,612	3,211	11.8%	▲239	▲7.0%
欧州	4,908	17.4%	2,305	2,418	4,723	17.4%	▲184	▲3.8%
ASEAN	3,782	13.4%	1,714	1,981	3,695	13.6%	▲86	▲2.3%
合計	28,140	100.0%	12,534	14,624	27,159	100.0%	▲980	▲3.5%
【ご参考】 ERP影響除く	27,240		13,234	14,624	27,859		+619	+2.3%

■ 製品別

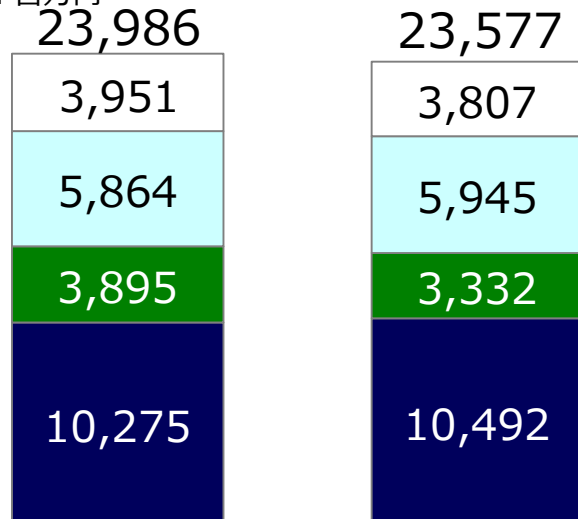
単位：百万円

	2023年度		2024年度				2Q累計 前年同期比	
	2Q累計	構成比	1Q	2Q	2Q累計	構成比	増減額	増減率
BtoB	12,192	43.3%	5,333	5,918	11,252	41.4%	▲940	▲7.7%
FPC	5,856	20.8%	2,649	3,186	5,836	21.5%	▲20	▲0.3%
車載IF	8,101	28.8%	3,630	4,457	8,088	29.8%	▲13	▲0.2%
ピンヘッダー	1,330	4.7%	553	575	1,129	4.2%	▲201	▲15.1%
その他	659	2.4%	367	486	853	3.1%	+194	+29.5%
合計	28,140	100.0%	12,534	14,624	27,159	100.0%	▲980	▲3.5%

10. 市場別売上：モビリティ

■前年比▲409百万円 (▲1.7%)

単位：百万円



23年度2Q累計

24年度2Q累計

■ インフォテインメント
□ パワートレイン

■ センサー
□ その他

インフォテインメント

- ・2Q累計前年比: +2.1%
- ・液晶パネルや電子制御(ECU)用の高速伝送対応可動BtoBコネクタが堅調

センサー

- ・2Q累計前年比: -14.5%
- ・搭載車種の台数減と、一部顧客で機器の構造変化により減少

パワートレイン

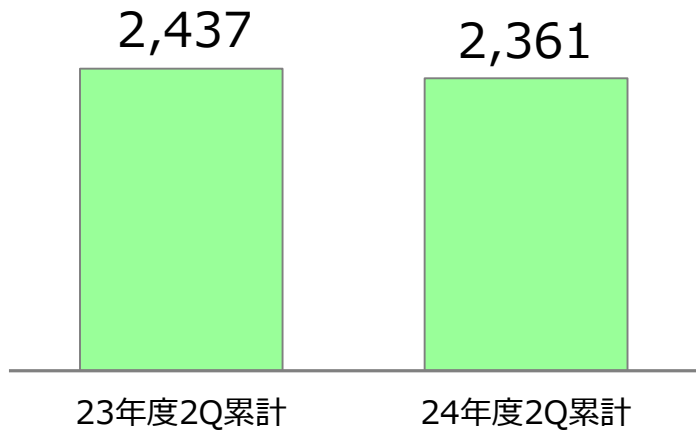
- ・2Q累計前年比: +1.4%
- ・前期3Qからの欧米でのxEV販売不振の影響が継続
- ・2Q単独は中国顧客の回復もあり今期1Q比増

	23年度				24年度		YoY	QoQ
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
インフォテインメント	4,668	5,606	4,797	5,635	4,909	5,583	▲0.4%	+13.7%
センサー	1,825	2,069	1,753	1,862	1,659	1,672	▲19.2%	+0.8%
パワートレイン	2,190	3,674	3,091	2,983	2,656	3,288	▲10.5%	+23.8%
その他	1,849	2,101	1,800	1,911	1,719	2,088	▲0.6%	+21.5%
合計	10,534	13,452	11,442	12,393	10,944	12,632	▲6.1%	+15.4%
【ご参考】ERP影響除き	10,534	12,552	12,342	11,693	11,644	12,632	+0.6%	+8.5%

11. 市場別売上：コンシューマー・インダストリアル

■コンシューマー市場：前年比▲75百万円 (▲3.1%)

単位：百万円

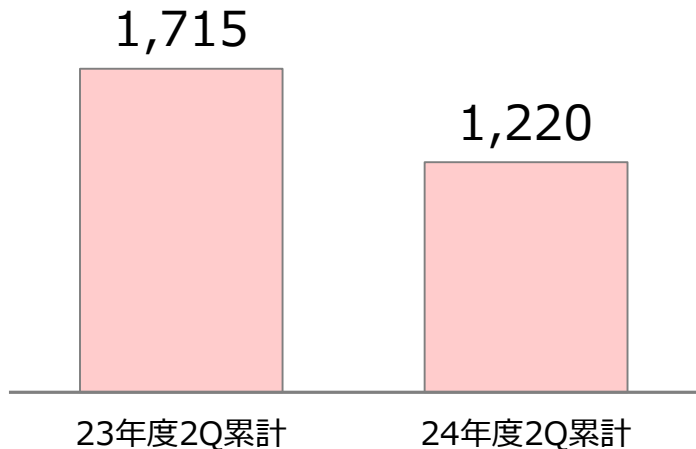


- ・2Q累計：ゲーム機向け減少するが、プリンター、デジカメ向け増加
- ・2Q単独：今期1Q比でゲーム機、プリンター向け共に増加

23年度				24年度		YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
1,130	1,307	835	1,065	1,042	1,319	+0.9%	+26.6%

■インダストリアル市場：前年比▲495百万円 (▲28.9%)

単位：百万円



- ・2Q累計：FA関連機器向けの販売不振継続
エネルギー・マネジメント分野の売上拡大
- ・2Q単独：今期1Q比でFA関連機器向け増加、ただし先行きは不透明

23年度				24年度		YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
831	884	722	671	547	673	▲23.9%	+23.0%



I. 2024年度第2四半期 業績概要

 **II. 2024年度 業績見通し**

III. 株主還元

IV. トピックス

1. 事業環境の認識

	期初計画時の前提	現状の認識
需要	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数（23年度→24年度） 90→92M台、前年比102% 内xEV:23→29M台、前年比126% 産業機器需要3Q以降市場回復 	<ul style="list-style-type: none"> 日米欧市場を中心に需要弱く、24年度は90M台下回る。特にxEVは前年比110%強の成長に留まり、EV需要の停滞、PHEVが伸長 生産調整が4Qまで継続
売上	<p>[モビリティ市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> エンテインメントのナビ・オーディオ、並びにセンサーのミリ波の既存製品の漸減率21～23年実績並みで減少 高速伝送対応新製品の需要拡大 中国市場の当社シェア維持、拡大 <p>[インダストリアル市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> 24年下期以降成長路線に回帰、中国市場拡販による売上増 	<ul style="list-style-type: none"> 特に欧州主要顧客の生産調整により、漸減率悪化によるエンテインメント、センサーの売上減少 計画を上回る受注に対応し、売上が拡大 中国競合企業の価格攻勢による当社シェアダウン 生産調整の継続、中国市場は高速電送対応・蓄電池用製品を中心に売上拡大
コスト	<ul style="list-style-type: none"> 材料費価格の高騰、エネルギー価格高止まり、地政学リスクにより輸送費高騰 ERPシステム切替、秋田工場建設等、戦略的投資による支出の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 主に金、銅価格の想定以上の急高騰 計画以下の支出額で推進

2. 2024年度 業績予想

■ 通期計画を修正。配当は据え置き

下期為替レート：ドル:145円、ユーロ:160円、中国元:20円

単位：百万円

	2023年度		2024年度			前年比	
	上期	通期	上期	通期 期初計画	通期 修正計画	対上期	対通期
売上高	28,140	55,271	27,159	58,000	54,000	▲980 ▲3.5%	▲1,271 ▲2.3%
売上原価率	68.4%	69.0%	69.6%	67.0%	71.0%	+1.2pts	+2.0pts
営業利益	3,315	5,936	2,119	7,000	4,300	▲1,196 ▲36.1%	▲1,636 ▲27.6%
営業利率	11.8%	10.7%	7.8%	12.1%	8.0%	▲4.0pts	▲2.7pts
税引前利益	4,101	6,869	1,492	6,500	3,800	▲2,609	▲3,069
当期純利益	3,167	5,593	1,089	5,200	2,750	▲2,078	▲2,843
EPS	134.66円	237.75円	47.10円	226.82円	120.71円		
為替レート 期中平均	ドル：141.31円 ユーロ：153.51円 元：19.80円	144.40円 156.80円 20.14円	152.30円 165.46円 21.15円	145.00円 160.00円 20.00円	148.93円 162.94円 20.62円	+10.99円 +11.95円 +1.35円	+4.53円 +6.15円 +0.48円
設備投資	5,263	9,049	5,036	8,000	8,000	▲226	▲1,049
減価償却	3,072	6,326	3,498	6,900	6,900	+425	+573
配当	-	90円	-	100円	100円	-	+10円

3. 2024年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	2023年度		2024年度						修正計画	
	実績	構成比	通期 期初計画	構成比	上期 実績	下期 修正計画	通期 修正計画	構成比	前年比	期初 計画比
モビリティ計	47,823	86.5%	51,000	87.9%	23,577	23,722	47,300	87.6%	▲1.1%	▲7.3%
インフォテインメント	20,708	37.4%	22,600	39.0%	10,492	10,407	20,900	38.7%	+0.9%	▲7.5%
センサー	7,512	13.6%	7,500	12.9%	3,332	3,117	6,450	11.9%	▲14.1%	▲14.0%
パワートレイン	11,939	21.6%	12,900	22.2%	5,945	6,304	12,250	22.7%	+2.6%	▲5.0%
その他	7,662	13.9%	8,000	13.8%	3,807	3,892	7,700	14.3%	+0.5%	▲3.8%
コンシューマー	4,338	7.8%	4,000	6.9%	2,361	1,838	4,200	7.8%	▲3.2%	+5.0%
インダストリアル	3,109	5.6%	3,000	5.2%	1,220	1,279	2,500	4.6%	▲19.6%	▲16.7%
合計	55,271	100.0%	58,000	100.0%	27,159	26,840	54,000	100.0%	▲2.3%	▲6.9%

4. 売上・利益変動要因(期初計画比)

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
24年度 期初計画	58,000	7,000	12.1%	
為替影響	+1,050	0		
物量増減	▲5,050	▲2,700		売上減に加え、棚卸資産圧縮による生産減を織込む
材料費増減		▲600		素材市況価格高騰
固定費増減		+450		操業度減に対応した人員・経費抑制を継続推進
原価低減他		+150		内製化の強化、価格政策他
変動要因 計	▲4,000	▲2,700		
24年度 修正計画	54,000	4,300	8.0%	

5. 経営環境変化と対応

	状況	対応
事業環境	<p>[モビリティ市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日欧米自動車メーカーの販売不振、EV市場の減速 ・インフォテインメントのナビ・オーディオ、センサーのミリ波の売上縮小の加速 ・パワートレイン分野の成長減速 ・中国自動車メーカーの台頭と価格競争の激化 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合ECU関連製品の計画を上回る事業拡大の推進 →現在の高速伝送対応製品に加え、次世代高速対応製品、スケーラブルコネクタでの市場開拓の強化 ・パワートレイン分野での業界No.1地位構築 →価格対応・コスト力強化、中国での当社シェア奪還 →Z-Moveラインアップ拡充等、電池周り製品の拡販 →軽量化・薄型化、欧米規格対応製品の開発、一部量産化 ・センサー分野:共同開発による新製品の早期量産化 ・DX活用による製品開発、設備標準化による売上拡大
	<p>[インダストリアル市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業機器需要の低迷継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・PLC、ロボット用コネクタのW/W事業拡大推進 ・新規商社採用、調達品活用による新規顧客開拓、売上構築 ・AI、半導体製造装置、通信、エネルギーマネジメント分野開拓
コスト競争力	<ul style="list-style-type: none"> ・金、銅等素材価格の高騰、輸送費の高止まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・めっき合理化設備を有する工場稼働率向上による原価低減 ・省金化製品の拡大、並行して主要ベンダーとの連携による金めっき厚の薄膜化を現在検討中 ・新ERP本格稼働による間接コスト削減、リードタイム短縮 ・秋田工場新設による全生産拠点の体制・役割見直し



I. 2024年度第2四半期 業績概要

II. 2024年度 連結業績見通し

 **III. 株主還元**

IV. トピックス

資本コストと株価を意識した経営を一層強化し、中期経営計画で掲げたROE・ROICの目標達成を確実なものとするべく、当社の株価が企業価値に対し低く評価されているこのタイミングで追加の自己株式取得を決議

■ 目的

ROE・ROICなどの資本・投資効率の向上と、更なる株主還元の拡充

■ 取得株式総数

200万株（上限）

発行済株式総数（自己株式除く）に対する割合8.9%

■ 取得総額

60億円（上限）

■ 取得期間

2024年11月6日～2025年10月31日まで



I. 2024年度第2四半期 業績概要

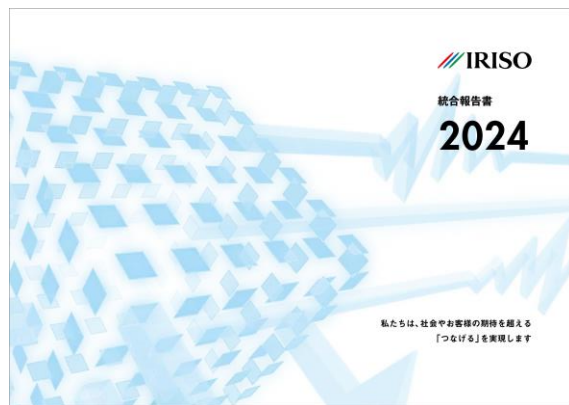
II. 2024年度 業績見通し

III. 株主還元

 **IV. トピックス**

■「統合報告書2024」発行

- ・イリソ初となる統合報告書を発行（掲載URLは[【こちら】](#)）
- ・初号のため、価値創造ストーリーに加えて、イリソの沿革や事業内容、強みなど「イリソのことを知ってもらうため」の基本的な内容を掲載



・主な項目

- ・経営理念、沿革、事業内容と強み、独自のソリューション
- ・トップメッセージ、価値創造プロセス、中期経営計画、成長戦略
- ・ESGへの取り組み、社外取締役座談会
- ・財務・非財務データ、会社情報

※英語版は11月中に発行予定

■環境改善活動に向け、東急不動産グループと連携

- ・東急不動産株式会社、リエネ株式会社と「環境活動推進に向けた包括的な取組連携協定に関する基本合意書」を締結
- ・東急不動産が開発・所有する再エネ発電所について、リエネが、オンサイトPPA・オフサイトPPA、蓄電池の設置のイリソへの提案等を推進
- ・茨城工場や秋田工場（2025年度稼働開始予定）を含めた当社全体の再エネ化検討を行うなど、三社による包括的な環境改善の取組を実施していく

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,037名(2024年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2024年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、台湾、インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県(花巻工場)、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.